

市では、現在新たなまちづくりの指針となる新総合計画の策定を進めています。計画を審議する総合計画審議会の委員の皆さんに、これからのまちづくりに期待することなどを伺います。



地域社会デザイン・ラボ
代表
遠藤 智栄 さん

プロフィール

まちづくりや人材育成、行政の施策への市民参画などを支援。地域住民や企業と共に課題や未来像を見つめながら、問題解決や組織強化をサポートしている

Q 総合計画の策定を通して期待することは？

A 人間は、問い掛けられると考えます。この観点から言えば、仙台市の総合計画をつくることは、市民の皆さんに問いを投げ掛ける貴重な機会です。仙台の未来をどうしたいか、住んでいる地域がどうすれば暮らしやすくなるか、仙台の未来を自分ごととして考えていただくチャンスだと捉えています。

これまでも新総合計画の基本計画中間案に対するパブリックコメントや市民参画イベントなどで、市民の皆さんからたくさんのご意見をいただいています。身の回りで起きたことから切実に考えてくださった方、ご自身の研究や活動を基にコメントをくださった方なども

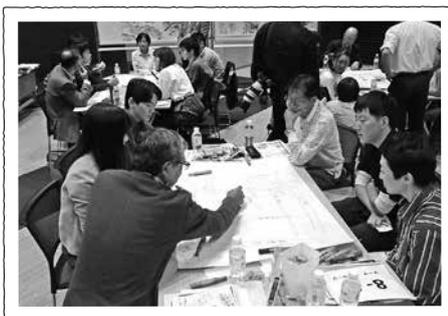
いらっしやいました。こうしてみんなで考えたり話したりすることが、地域の問題解決や担い手の増加につながることを期待しています。

Q まちづくりや人材育成で重視すべきことは？

A その地区やまちが持続可能かどうかは、そこに住み続けたいと思えるかどうかに関わってきます。だからこそ若い人たちが、自分の住んでいる地域について考えることが大切です。私を含む中高年の方であれば、自分が30年後や50年後に生きていたら、どんな仙台であってほしいか。未来の人たちにつないでいきたいもの、残すことができないものはなんだろう。こうした思考で未来を想像すると、今やるべきことが見えてきます。短期の目標から中長期までを見据え、未来世代の関心の芽が出やすいように土を耕しておくことも、まちづくりや担い手育成には必要だと感じます。

また子どもたちや若い世代の背中を押すためには、大人がやりすぎないことが重要です。大人が目指す方向に誘導したり、黙って見守れなかつたりと、大人の行動がネックになるケースも見受けられます。先生や親御さん

たちと連携しながら見守り、伴走していく。若い人たちがまちをフィールドに何かを考える機会をつくり、任せたり、一緒に汗をかいたりする。失敗することも含めて、経験や学びにしていくことが大事だと思います。



総合計画などを通して、自分たちの地域の未来を考えていくことは大切です

Q これからの仙台に期待することは？

A 市民の皆さんには今後、おむね3年間の具体的な目標と施策を定める「実施計画」の策定にも、関心を持っていただきたいです。実施計画は基本計画よりも具体的な取り組みを示すものなので、まずは自分の気になる分野から注目してみてください。きっと市民一人一人の個性やライフスタイルに合った施策があるはずです。そこから自分の興味や才能を生かせるまちづくり活動につながれば、大きなエネルギーが生まれるでしょう。そんなアクションを起こす人や組織が、ますます増えることを願っています。

仙台市の公園

「杜の都」仙台は、定禅寺通や青葉通の美しいケヤキ並木や青葉山などの丘陵地、公園の樹木など豊かな緑に恵まれています。本市の緑被率（緑で覆われた土地の割合）は78.4%と、市域の大部分が緑で覆われており、政令指定都市の中では、浜松市、広島市に次いで3番目の高水準となっています。また、市内には1,805の都市公園があり、1人当たりの面積は神戸市、岡山市に次いで3番目と大きく、我々の身近に緑あふれる公園があるといえます。

公園は私たちに安らぎや潤いをもたらすとともに、子育てや健康づくり、交流の場となるなど、さまざまな機能を持っています。今後も地域の拠点となる公園づくり、地域ニーズに応じた特色ある公園づくりを進めていきます。

